▽取組事例名	段畑を活用したＮＰＯ法人による地域づくり	▽取組期間	平成１９年度～（継続中）
		▽市町名	宇和島市

▽取組概要

国の重要文化的景観に指定された「遊子水荷浦の段畑」を活用した地域づくりを実施し、農漁村と都市住民との交流人口の拡大や地域の活性化を図る。

▽取組みの背景

遊子地区は、市内中心部より車で40分程度の時間を要する海岸部にあり、主な産業は、養殖業と段畑による馬鈴薯の栽培である。豊富な地域資源に恵まれながら、高齢化・過疎化による後継者不足により、地域活力が低下していた。

段畑が、平成19年に、風景とその生活そのものが受け継がれていくべき日本の財産であるとして、国の重要文化的景観に指定されたが、人口が減少し、石垣の維持管理保存は、労力的に大変厳しい情勢となっていた。

▽取組みの狙い・具体的内容

（取組みの狙い）

重要文化的景観「遊子水荷浦の段畑」・段畑で収穫された馬鈴薯等の農作物・宇和海の新鮮な水産物など豊かな地域資源を活用し、地場産業の振興と住民交流の促進を目指し、地域の活性化を図るとともに、段畑の景観と環境保全を推進し、後世に伝え残す。

（具体的内容）

平成19年3月　ＮＰＯ法人　段畑を守ろう会が設立
・新たな地域の特産品として、酒造会社と協力して馬鈴薯を使った商品を開発

平成19年7月　遊子水荷浦の段畑が国の重要文化的景観に選定される

平成20年度　宇和島市が農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業により農林水産物直売・食材提供供給施設（だんだん茶屋）を整備

平成21年度　だんだん茶屋の指定管理者としてＮＰＯ法人　段畑を守ろう会を選定
・地元の農林水産物や食材の展示販売や地場産品の紹介
・地域イベントの支援（ふるさとだんだん祭り、段畑ライトアップ等）
・視察や研修等の受入
・観光案内
・馬鈴薯のオーナー制度

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

段畑の地権者に段畑の復元や保全、オーナー制度を理解してもらうため、何度も話し合いを必要とした。

作業能力の向上のため、作業道の整備やモノレールの新設などを行ったが、景観と調和させることに苦労した。

☆工夫した点

・旅行会社とタイアップすることにより、団体客の確保
・ホームページによる情報発信
・アンケート調査による情報収集
・地域内・外での交流イベントへの参加
・地元食材確保のため、農協・漁協・生産者との連携
・「遊子水荷浦段々畑の馬鈴薯」のブランド化
・馬鈴薯オーナー制度の実施

▽取組みの効果

イベントを開催、ホームページによる情報発信により、平成16年～18年の3ヶ年で約10,000人だった来訪者が、平成20年～平成22年には約57,000人と大幅に増加し、農漁村と都市住民との地域間交流が図られた。

また、市内・県内外を問わず多くの方が足を運んでくれることに、地元としての誇りを持ち、それを維持するために環境美化などに努めるなど、「もてなす」という意識が地域に浸透しつつあり、また、地域を今以上のより良いものにするためにはどうしたらよいかなど、住民同士の意思の疎通を持って自ら考える力が養われている。

近隣の小学校では授業の一環として、馬鈴薯を栽培し、段畑の歴史を学ぶことにより、段畑に関心をもつようになった。

▽住民（職員）の反応・評価

地元農水産物の活用、雇用の創出、遠隔地からの訪問者、マスコミ等の露出など、地元が活性化しており、地元住民の反応は概ね上々である。

☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

国の重要文化的景観に選定されたこと、直売と食材提供を行う施設を整備したことにより、交流人口は大幅に増加したが、一過性の物であってはならないので、今後、段々畑の維持管理、直売と食材提供施設の内容の充実、県外等に情報の発信など、より一層の努力が必要であると思われる。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

来訪者は増加したが関係者等の一部の人間だけの盛り上がりでは地域の活性化とは言えないので、地区住民全体の理解を得るためのコミュニケーションが大切である。

当初は真新しく新鮮であっても、マンネリ化していくと意識の向上が停滞していくので、常に新しい取り組みを模索していく必要がある。

養殖漁業・真珠養殖の衰退もあり、後継者が地区を離れ、高齢化・過疎化が進むなか、段畑を維持管理するための人員を育成しなければならず、そのためには、行政と協働でだんだん茶屋等を通じて市内外に段畑をアピールし、地区外の人々を巻き込んでいく。